

<ニュースリリース>

令和3年度 民間部門農林水産研究開発功績者表彰において農林水産大臣賞を受賞 『ジャガイモシストセンチュウ対策としての抵抗性加工用トマトの開発』

カゴメ株式会社(代表取締役社長:山口聡、本社:愛知県名古屋市)は、令和3年度(第22回)民間部門農林水産研究開発功績者表彰において、当社の『ジャガイモシストセンチュウ対策としての抵抗性加工用トマトの開発』が農林水産大臣賞を受賞したことをお知らせいたします。

■ 民間部門農林水産研究開発功績者表彰とは

農林水産省及び公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が共同で実施し、民間部門の農林水産研究開発に関して優れた功績をあげた者を表彰するものです。

■ 受賞者・業績名

受賞者: カゴメ株式会社イノベーション本部 松下航、山岡浩一

業績名: ジャガイモシストセンチュウ対策としての抵抗性加工用トマトの開発

(業績の概要)

カゴメでは、加工用トマトの重要産地のひとつとして、北海道に注目し産地化を推進しています。しかし、露地栽培の加工用トマトを北海道で栽培するにあたり、土壌害虫のジャガイモシストセンチュウが大きな障害となっていました。ジャガイモシストセンチュウとは、ジャガイモやトマトなどナス科植物の根に寄生し、大幅な減収をもたらす外来害虫です。ジャガイモシストセンチュウは、北海道を中心に国内11,000ha以上の農地で発生しており、日本農業の大きな脅威となっています。

そこで、カゴメではジャガイモシストセンチュウ抵抗性を保有する加工用トマト品種「KGM191」を開発しました。本品種は、ジャガイモシストセンチュウによる減収を防ぐだけでなく、栽培を通して土壌中のジャガイモシストセンチュウ密度を低減できます。また、本品種は2016年に日本に侵入し、現在も植物防疫法に基づく緊急防除を実施中のジャガイモシロシストセンチュウにも抵抗性を示すことがわかっています。

本品種を活用することで、北海道における持続的な加工用トマト栽培および調達が可能になると考えています。また、ジャガイモシストセンチュウ根絶への取組みのひとつとして日本農業全体にも貢献ができると考えています。

【関連リリース 2019年9月5日】 <https://www.kagome.co.jp/library/company/news/2019/img/20190905001.pdf>

「北海道の農業で深刻な問題となっている害虫被害に救世主

シストセンチュウに対して、抵抗性と密度低減効果を持つトマトの開発に成功

加工用トマトの産地拡大を図るとともに、持続可能な農業にも貢献」

■ 問い合わせ先

<報道機関の方> カゴメ株式会社 経営企画室 広報グループ 北川・太田 TEL: 03-5623-8503

<報道機関以外の方> カゴメ株式会社 イノベーション本部 農資源開発部 松下 TEL: 0287-36-2935